

けうそくををさへてまさへ萬よに花のさかりを心しづかに  
〔調度歌合〕四番 右

老人のちからとなれるかひもなし身さへくるしき戀の道には  
右のうた、老人のちからとなれる計にては、けうそくの心いさ、か不足にや聞え侍らん

寄懸

〔正倉院御寶物之圖〕御寶物目錄記寸尺者、以金尺新量之

御倚懸 幅三尺七寸、長二尺六寸、  
幅九寸、高六寸、絹二ツ、

〔後奈良院御撰何曾〕三里半

よりか、り

〔御産所日記〕御産所之御具足色々給注文

一 御寄掛

〔嫁入記〕一よりか、り寸法は、みちのものこしらへていだすなり、をきあげにゑなどかきふたに  
ころもるとりのはなど入て、上はあやにてはるなり、

〔後奈良院宸記〕天文四年乙未正月廿二日甲申、今日晚景、自青蓮院豐樂門院御遺物トテ、ヨリ懸具

桶給之、今更様悲歎彌添哀慟也、

〔宗長息女婚禮記錄〕息女小笠原宗長嫁武田晴信、出給ふ時、中道具の順は、二の門にて定候也、中

道具與以下次第之事略

十七、長持よりか、り、下略

〔毛吹草〕山城 倚懸